

ケースを通して悩みを交流し解決する

Exchanging and Solving Problems by Teachers' Cases

安藤輝次*

和田美恵子**

Terutsugu Ando

Emiko Wada

奈良教育大学教職大学院* 姫路市立南大津小学校

School of Professional Development in Education, Nara University of Education*
Minami-Ohtu Elementary School**

〈あらまし〉 南大津小学校では、2007年3月から学校ケースメソッドによる教員研修を行ってきました。当初は、安藤がケースを用意して、全体討論の進行役を務めていましたが、9月には同校の教員が進行役を試み、11月には、教員全員が自分自身や見聞きしたが解決が難しい悩みをケースとして出し合い、問題解決を図るまでになりました。

本稿は、その実践を整理したものです。事例検討会だけならこれまでも行われてきました。しかし、私たちの実践研究は、全校の教職員が互いの智慧を忌憚なく出し合い、自分たちで解決できる問題となかなか解決が難しい問題に分けて、後者を全校的な取り組みに導こうとした点に特徴があります。このような研修の在り方は、外部講師による研修とは異なり、教師自身の教育実践に根付いたものであり、先行研究もありません。具体的事例に基づく新たな方向性を示したのと言ってよいでしょう。

〈キーワード〉 教員研修 学校ケースメソッド 教職の悩み 学校問題

1. 一人一人の教員の悩みをケースで伝える

南大津小学校の情報教育担当教員による情報モラルの学校ケースメソッドがうまくいったため、安藤先生の勧めもあって、学校の全教員が、それぞれ悩んでいる問題を次のような要領で10月末までに提出して、11月5日の研修会で話し合う手がかりとし、私（和田美恵子）が取りまとめ役をすることになりました。

- ① 自校だけでなく他校で見聞きした問題でもよいが、自分自身が教科指導または生徒指導に関する基本的で解決困難と感じている問題を取り上げる。
- ② その問題について必要とあれば、かかわりのある人（同僚等）に個別に尋ねて、より詳細で正確な情報をもつ。
- ③ 取り上げようとする問題について、「何が争点か」ということを明らかにする。
- ④ 主な登場人物を3名程度として、「どうすべきか」で終わる意思決定型と「困っている」という形で終わる叙述型のどちらかでストーリーを書く。なお、固有名詞は仮名とする。
- ⑤ 1つの文章は最大3行まで、段落も最大7～8行程度に短く、字数は1000字以内とする。

- ⑥ 学年は必ず記す。むずかしい漢字を多用しない。“ここを詳しく”という箇所については、会話体を用いて、具体的にイメージできるようにする。
- ⑦ そのケースの題名を一番上書き、そこで押さえないキーワードを10程度記す。

このような要領で提出されたケースは、学年別には次頁の表のようになりましたが、それを(A)個別対応、(B)保護者対応、(C)教科・総合、(D)暴力・いじめ、の4つに分類しました。そして、11月の研修会では、初めの1時間20分ほどを(1)から(4)のグループごとで集まって、各自が自分の悩みを出し合い、他の教師から助言や解決策があれば提案してもらい、残りの40分で全体会と称して、グループごとに「解決できたこと」「解決できなかったこと」を発表する機会をもちました。

以下では、グループ内で各自が持ち寄った問題を枠内に述べ、その下に同僚教師からの問題解決のための助言を括弧の下に記します。なお、本校のG教員は、当日、出張のため欠席しており、この研修会では、G教員の提出したケースは取り上げることができませんでした。

ケース	学年・組	名 前	教科・領域	教材名	ケース分類
ア	1-1	A	教科指導	一人では、手が回らない？ (算数)	②
エ	1-2	B	生徒指導	危険な裕美ちゃん	②
エ	2-1	C	生徒指導	「みんなで一緒に」とはどういうこと？～裕の家庭へのアプローチ～	①
ア	2-2	D	生徒指導	教室をとび出す子どもと、持っている子どもたち	④
ウ	3-1	E	総合的な学習	体験はしたものの、環境の大切さは……	③
イ	3-2	F	生徒指導	友達への嫌がらせや暴力をやめないA君	②
イ	4-1	G	生徒指導	いつになったら	②
ウ	4-2	H	生徒指導	根気が大事	④
ウ	5-1	I	教科指導	調べ学習、ただやるだけでは… (社会)	②
ウ	5-2	J	総合的な学習	「大海にこぎ出す小舟～そのたどり着く先は… …～」	③
イ	6-1	K	生徒指導	子どもの交友関係における親のかかわり	②
	6-2	L	情報教育	一難さって、また一難 (9月に実施済み)	
イ	たけの子	M	生徒指導	いじめ・偏見	②
ア	専科	N	生徒指導	どんな関わり方がいいのだろう	②
ア	専科	O	教科指導	「初めての少人数指導」(算数)	④
ア	専科	P	教科指導	「初めての少人数指導」(算数)	②
エ	養教	Q	生徒指導	腹痛を訴え教室には入れないB子……	④

①②は個人的な取組、③④は学校レベルでの取組

ア：個別対応、イ：保護者対応、ウ：教科・総合、エ：暴力・いじめ

ケース分類

①同僚の助言によって直ぐに解決できるケース

②直ぐには解決できないが同僚から助言によって取組の方向性を見出せたケース

③個人的な取組では解決できないが、教員全員で相談すれば何とか解決できるケース

(このケースに総合的な学習の学校カリキュラムが入る)

④個人的には解決できないし、教員全員で力を合わせて長期的に取り組まないといけないケース

2 個別対応

1) 1人では、手が回らない

学校の授業参観の後、保護者から「先生は、計算の苦手な子にばかり時間をかけるあまり、他の児童を放ったらかしているのではないか。クラス全体の児童に目が行き届いていない」という苦情があった。個別指導の必要な児童が5人もいるが、他の子への指導をどうすればよいでしょうか。

<同僚からの助言>

まず、管理職や同学年の先生に相談して指導を仰ぎ、わかりにくい児童には、休み時間や授業中等で時間を見つけて個別にかかわればどうでしょうか。また、保護者にも協力を依頼し、家庭でも密にかかわってもらうようにします。他の児童に関しては、もう一ランク上の問題を用意しておいて、早くできた子どもにどんどん問題をさせます。さらに、小さな先生として、わかりにくい子によくわかる子どもが教えるようにします。レベルに応じてプリント等を用意し、ステップアップさせたり、繰り返し学習させたりします。

2) 教室をとび出す子どもと待っている子どもたち

母1人子1人の家庭環境のSさん、1日に数回、教室をとび出す。そのたびに、担任は、他の子どもたちに自習させ、後を追いかけて説得する。放任主義であると思われる母親にどう対処し、学級の子どもたちを落ち着いた環境にさせるにはどうすればよいでしょうか。

<同僚からの助言>

“学級での指導”については、優しい面、がんばっている面をみなの前で誉めて認めて、「注意をしたら、みんなやったらわかるでしょう。でも、〇〇さんは、いまそれができないよね。どうしたらわかるようになるか、先生も考えてがんばっているところだから、みんなも応援して助けてあげようね」とわかりやすく話せばよいのではないのでしょうか。

“家庭に対して”は、担任1人で抱え込まないで、学校全体でかかわることです。困ったときは、他の先生や管理職に相談する。専門機関の協力を得る。虐待になっていないか常に気をつけましょう。

3) 初めての少人数指導

生徒指導の問題を抱えたクラスでは、複数指導で、その児童を落ち着かせることが先決となり、本来のきめ細かな少人数指導に踏みきれません。また、初めてのことで、クラス分けは、習熟度別のほうが効果は期待できませんが、分け方を慎重に考え、児童自身に選ばせることから始めました。これからどうすれ

ばよいでしょうか。

<同僚からの助言>

3年生の2クラスと4年生の1クラスは、取り組むことができます。しかし、4年生の1クラスは、少人数に踏みきれない実態があり、複数指導をしています。よくキレル児童がいて、1人にかかりつきりになってしまうことがあります。その児童をまず落ち着かせ、クラスの実態に合わせて指導すれば、どうでしょう。他の3クラスにおいては、習熟度別にクラスを分けて、きめ細かい指導で効果を上げています。

4) 自分の思いが表せない子ども

ふだんから自分を表現しにくい児童、図工の時間になると、専科でもあるため、いっそう自分を表現する絵を描くことをためらいます。じっと固まったまま作業を進めようとしません。どうかかわったらよいでしょうか。

<同僚からの助言>

子どものかかわりを増やしたり、担任の先生や他の先生に相談して、協力体制をとることです。子どものよいところを見つけ、誉めることも常に必要です。

また、図工の授業では、卒業式に掲示する自画像の木版画を、担任の先生を中心に指導を進めていき、時間は要したが、堂々とすばらしい作品が出来上がりました。1人の力でどうにもならないときには、担任の先生の力を借り、連携をとりながら、かかわっていききたいものです。

3 保護者対応

1) 「みんなで一緒に」とはどういうこと?

宗教上の理由で、鯉のぼりを作らなかつたり、校歌を歌わなかつたり、運動会の玉入れに参加しなかつたりと、集団行動をとらない児童への対処をどうすればよいでしょうか。ほかの児童への影響も大きいのです。

<同僚からの助言>

保護者と学校行事について事前に話し合っていく必要があります。2年生でも前向きに努力していくほうがすばらしいことを折りにふれて話したり、誉めたりして、がんばっている子どもたちを認めて、よい学級をめざしたいものです。

2) 腹痛を訴え教室に入れないTちゃん

生まれつき左手が不自由でしたが、楽しく学校生活を送っていたT子が、音楽会前から腹痛を訴え、教室に入るのをためらい、保健室登校をしていました。学年、担任が変わる4月、Tちゃんへの対応に不安を抱いていま

すが、どのような対策を立てておけばよいでしょうか。

<同僚からの助言>

担任は、児童理解をしっかりと、保護者の考え方もよく理解する必要があります。幸い、児童が自ら少しずつ教室に入れるようになりつつあり、友達も周りに集まるようになり、明るくなっています。ねばり強く児童を支援していきましょう。

3) 危険なUちゃん

大きなあざがたびたびできるUちゃんです。食事を罰として与えられないといった事実を「しつけです」「子どもも納得しています」という親に対して、担任が「虐待ですよ」という発言をしたために、母親との人間関係がうまくいかなくなりました。Dちゃんは、学校で問題行動を起こします。どうすればよいでしょうか。

<同僚からの助言>

家庭内の問題を背負って学校に来ている児童も多くいます。学校生活をしている間は、児童を受け入れて、大切にしたいものです。しかし、ものがなくなる現実に担任も悩んでいるでしょう。学習に必要なものは教室に準備して、前もって渡して安心した生活を送らせたいものです。保護者との対応は、1人ではなく複数で相談を受けるようにして下さい。

4) どんなかかわり方がいいのだろう

専科の時間に、「がんばって」と強めに指導をしたところ、教師と児童との人間関係がそこまでできていないため、その言葉に子どもが傷ついたと、保護者から苦情を受けました。専科は、どこまで指導できるのでしょうか。

<同僚からの助言>

専科の時間は、児童とのかかわりの時間が少なく、人間関係をつくるのはむずかしいでしょうが、保護者の願いを受けとめ、授業を大切にしましょう。中学年での専科は、担任との協力も必要です。専科→担任→保護者へと連絡を図り、専科だけの行動はしないで下さい。保健室登校の児童の例については、長い目で見守りながらも、受け入れる学級の雰囲気づくりを心がけたいものです。また、家庭環境に問題がある児童については、できるだけ家庭へのアプローチをしながら、学校においては、温かく見守り支援していく体制をとればどうでしょうか。

4 教科・総合

1) 体験はしたものの、環境の大切さは

『自然の恵みを受けて生きている私たち』のテーマを設定し、レンコンの栽培と塩作りを中心とした体験学習を3年生の総合的な学習で進めてきました。子どもたちは、意欲的に取り組み、貴重な体験はしましたけれど、年間を通しての活動となると、こま切れの感じで、与えられた活動をこなしているだけであって、子どもたちの主体的な学習が見られません。何が足りないのでしょうか。

<同僚からの助言>

教師サイドで考えたテーマにならないように、子どもの興味・関心を広げたテーマづくりをしていけばよいです。長いスパンでの総合的な学習の計画を立てて、地域の人には、アドバイザーとして来てもらって下さい。体験と学習を進めていくためにも、子どもたちが、自分たちで作ることのできるレンコン畑を確保することを提案します。体感、五官を通したレンコン作りが大切です。

2) 大海にこぎ出す小舟

5年生の総合的な学習で、社会科の工場調べの発展学習として、『わたしたちのふるさと自慢』をテーマに、リサイクルしている工場や環境を配慮している工場に焦点を当てて、学習を進めました。体験学習から入ったため、子どもたちは興味をもって取り組んだのですが、広がりのない発表が多かったように思います。テーマや計画を考える際に何を留意すべきでしょうか。

<同僚からの助言>

個別にグループで工場へ行くとき、教師の手が回りません。細かい指導のもと、子どもを信頼して調べさせて下さい。また、安全確保のうえでは、年度初めに計画を立て、保護者の応援を募ることで、今年初めての取り組みでしたが、工場や会社との顔つなぎがまずできました。中間発表会を生かすためにも、振り返るための評価規準(アイテム)を用意し、自己評価・相互評価をして下さい。また、深めていく手だてとして、各班で調べてきたものを、テーマに合った課題へと収束していくとどうでしょうか。本発表では、初めから誰に伝えるのかという相手意識をもたせることが大切です。

3) 調べ学習、ただやるだけでは

社会科の発展学習として、地域にある工場を素材として、子どもたちが課題をもち、調べ学習を進めていきますが、単に聞いてきたことを書くだけだったり、本を写すだけに終り、そこから考えたり、自分の生活に生かすものになっていません。どうすれば問題解決学習を効果的に進めることができるのでしょうか。

<同僚からの助言>

調べ学習というのは、問題解決的な学習の一部にすぎません。主体的に学習できるように、子ども自らが発見した課題をもち、予想を立て、課題を追求していくことが大切です。そのためにも、教師が子どもに課題を見つけさせる工夫をする必要があります。子どもが意欲をもって学習できるように核心に迫るビデオを用意したり、中心概念をしっかりとって学習が進められるよう支援したりしていった下さい。

課題解決的な学習や問題解決学習に問題が残るように思います。子ども自身が興味をもって課題追求していく姿勢を持続させるのはむずかしいでしょう。どうしても、教師主導型になるのはなぜでしょうか。また、中間発表会をしても、あまり深まっていかないなど、課題のもたせ方や学びの方法について、学校全体で見直していきたいものです。

5) 暴力・いじめ

1) 子どもの交友関係における親のかかわり

子ども同士のトラブルに口をはさむ保護者が増えている中、どのような言葉かけをすると保護者が落ち着いて、冷静さを取り戻し、広い視野に立った子育てができるようになるのでしょうか。

<同僚からの助言>

親への説明責任が十分果たせるように、日々の指導記録をきちんととっておきましょう。また、子育てには、親同士の横のつながりが重要になってくるので、懇談会等を活用し、啓発活動を行うことが大切です。

2) いじめ・偏見

障害をもつ児童に対し、1人の男子が、「キモー。あっち行け」とけりつけることがあります。周りにいる児童は、悪いと思いつつも、その児童が恐いため同調してしまいます。低学年の児童に障害に対する正しい理解を促すにはどのような言葉かけをすればよいのでしょうか。

<同僚からの助言>

人権問題であることを、子どもの発達段階に応じ理解させることが大切です。道徳の時間なども利用し、弱い立場におかれている子どもの悲しい気持ちに共感させる場面を多く取り入れていくことです。

3) 友達への嫌がらせや暴力をやめないUちゃん

小さいころからわがままで、みんなに命令したり、わがもの顔で行動するUちゃん。3年生になっても、クラスの友達に暴力を振るったり、嫌がらせをしたり、持っているものを取って放ったりなど平気でします。その都度指導はしていますが、いっこうに問題行動は減りません。どうすればよいのでしょうか。

<同僚からの助言>

休み時間などにも子どもたちの中に入り、様子を見守るとともに、よさを見だし、学級経営の改善に努める。生育暦を調べ、指導に生かしましょう。

4) いつになったら

Xちゃんは4年生。今日も友達の顔を殴りました。突然カッとなり、暴力を振るうのです。相談センターにも通っていますが、なかなか落ち着きません。家庭にもたえず連絡を取って、対応の仕方を一緒に考えていますが、目を離せません。

<同僚からの助言>

親が抱えているストレスが子どもを悪い方向に向かわせている可能性も考えられるので、専門的な機関との連携が必要になってきます。学校では、先生と何か一緒にできることを探し、その子のよさを認めてやることで行動面の改善に努めましょう。

6) 学校全体で取り組むべき問題をあぶり出す

11月の研修会において各自で問題をケースにして持ち寄ったものは、すでに述べたように、南大津小学校の直面する問題ばかりとは限りません。他校や前任校などで出会ったり、見聞きした問題も含まれていますが、私たち一人一人の教師が解決したいと思っている問題であることは間違いありません。

さて、表1からわかるように、取り上げられたケースは、「教科指導」が4つ(算数2つ、社会と図工各1つ)、「総合的な学習」が2つ、「生徒指導」が10となっていて、本校の教員にとっては、生徒指導をどうすればよいのかということが最重要課題になっていることがわかります。ただし、生徒指導の問題のうち7つは、個人的な取り組みですぐに解決できそうであったり、少なくとも方向性を見いだせそうなものです。たしかに、教科や総合を含めて、諸問題をみんなで話し合い、解決策を探り、同僚教師の

経験知などを踏まえた助言もあって、解決の方向性がわかったことも少なくありません。

しかし、表1の③のように、個人的には解決できませんが、学校全体で残すところ半年弱となったものの、年度内に取り組めば何とか解決できるかもしれないという問題もあれば、④のように、もっと長期的に取り組まなければならない問題もあります。

安藤先生との当初の打合せで、学校ケースメソッドの共同研究は1年間ということでした。したがって、私たちは、③として示された総合的な学習についての学校全体のカリキュラム編成や学習の進め方についてケースをつくり直し、2008年1月21日に学校ケースメソッドによる研修会を開催することにしました。